

放送番組審議会議事録

- 1 開催年月日 平成 28 年 6 月 30 日〔木〕 18:30～
- 2 開催場所 奄美市名瀬金久町 4 番 3 号 2 階 あまみエフエム会議室 にて
- 3 出席委員 委員総数 7 名 出席委員数 6 名

出席委員の氏名

楠田 哲／和泉 豊一／玉野 梨沙／星村 文乃／迫田 真吾／藤井 琢磨

放送事業者側出席者名

麓 憲吾／丸田 泰史／渡 陽子／手蓑慎之祐／作井 美由紀

4 議題

審議(「あの日あの頃～アメリカ軍政下・行政分離期の奄美を語る」について)

5 議事の概要

(1)審議(「あの日あの頃～アメリカ軍政下・行政分離期の奄美を語る」について)

(2)次回の審議議題について

6 審議内容

(1) 番組内容の審議(「あの日あの頃～アメリカ軍政下・行政分離期の奄美を語る」について)

藤井委員長:

それでは、今回の議題は「あの日あの頃～米軍政下行政分離期の奄美を語る～」です。みなさんが聴いて、思うところ、改善点・よかった点などをご自由に言っていただければと思います。

まずは、前回お休みしていた、楠田さんからお願いします。

楠田委員:

戦争の内容ですよ。この番組、深い話、辛い悲しい体験が多いと思うんですが、今回聴いた方(語り部)は、「そんなに戦争って感じじゃなかったよ」という感じで、新しい部分が見れたのかなと思いました。

ナビゲーターの財部めぐみさんは、すごくおじさんの心を引き寄せる魔力を感じるんですよ。水玉のワンピースを着ているんだろうな…とか思って。わかります？

事務局 麓:

わかります！

(一同笑い)

楠田委員:

そういうのって、ラジオのパーソナリティにとって大事な部分だと思います。姿形が見えない分だけ。それだけ彼女には魅力を感じた。戦争のことをマジメに勉強していらっやって、後世に残していこうとしているところが、勉強になりました。

この番組、60分ですよ？僕には、長く感じました。ラジオという媒体で、1時間聴いているっていうのは、なかなかできることじゃないと思います。ラジオだからできるのかもしれませんが。ながらラジオと捉えれば。僕には長く感じました。

和泉委員：

(今回の語り部について)まさか、自分の恩師が出るとは思わずに(驚きました)。話が戦後直下の話だったんですが、聴いていて情景が浮かんでくるような表現でよかった。学校の先生を退職された方なので、自分もそれを分かって聴いていたからなのか、表現もうまいなと思いました。本人も私なんかが中学校の時に外国に簡単に行ったりしていた先生だったので、他の先生とも比べて「感覚が、視野が広いな」という感じがしました。(ナビゲーターの)花井さんと財部さんの聞き方もすごく上手くて、3人の会話に入っていくような感じが、聴いてて…戦争とか満州とかそういうのが出て来たときに、自分なんかテレビの世界で、「ラストエンペラー」とか見ている影響で、情景が浮かぶなと思いました。

時間は、長かったかもしれないんですが、中身の方としては、2回3回やることによって、聴く人が「あ～、こないだここまで聴いたんだけど」というのがあって、再放送などするのはすごくいいことだと思います。特に、長編物になるとなかなか2回か3回か聴いて味が出てくるのではないかと思います。

玉野委員：

今回は、力を入れないと聴けないなという題材だったと思います。聴きながらとか、仕事をしながらだと難しいと思いました。再放送の時間が、19時からとなっているので、ある程度落ち着いて手を止めて、横になって聴けたらいいなと思いました。(もう少し遅い時間がいいというニュアンス)

上手にお話されているんですけど、実際にどんな写真なのか見たいなと思いました。インターネットが普及しているので、写真をネットでアップして、ラジオを聴いて、あとで追えるようなことをしたらいいと思います。校長先生を経験されている方なので、話がつっかかることなく、話が聴けた60分間でした。

星村委員：

正直、60分は長いなと思いました。ただ、満州に島から行った人がいるんだと知らなくて、先生の経験は、父や母に聴いたことがあったので、イメージはついたんですが、大連がパリのように作られたという話だったので、先ほど楠田さんが言われたように、悲惨じゃないお話として聴くことができました。よく、(このような経験をされている方を)発見、発掘したと思いつつ聴きました。(ナビゲーターの)花井さんが、時々言葉をはさむのが、適切というかいい感じだと思いました。

迫田委員：

聴く前は、長いので(少し抵抗があり)、初めは要所要所しか入ってこなかったのですが、改めて聞き直すと、前半、大連での話を聴いて、幼少期から海外ということが今の時代なかなかないのですごいと思いやーと思います。学校で社会、現代史であまりやらないので、実際にリアルな話って戦争のこと、具体的で参考になった「ソ連兵がこわい」とか。戦争よりも、戦争が終わった後、負けた後の方がすごい大変だったということも聴いて、意外だなと思いましたね。どっちかという、実際、話が面白くて。それだけ、パーソナリティも、話の引き出し方とか、ゲストの方をうまくしゃべらせるようにしていると思うので、自然と聞き入ってしまいました。

後半は、奄美に帰って来てからの話で、小学校の頃とか、イモ食べてたとか、今の僕らの生活では思わないようなことを体験されてて、革靴が壊れて裸足で歩くのが大変だったとか、とくに印象に残ったのが、勉強を教える先

生が出張でしか来ない、加計呂麻島だからかわからないけど、何でも自分たちで勉強していたという話が、そういった学習方法もありだな、自分から積極的に動けるんだと教えられた気がして、感心しました。メッセージのところ、社会人の基本として挨拶とか、時間を守ることをしっかりしましょうということをおっしゃっていたので、僕、前回この会に遅刻してしまったので、遅刻しないようにしないとと思って、急いで来ました。

(笑)

目標をしっかり持って、ちゃんと大きな目標を持ってやれば、自分で動いていけるというか、今の自分にとっても役に立つ名言というか、生き字引というか、失敗を恐れずに行動するというか、自分をしっかり信じて前向きに頑張るとか、こういったネタって、自分からきこうと思って気分がのらないので、きいて面白かったです。こういった、80代の方なので、何年後かしたら亡くなってしまう可能性があるのも、こういった話は、これから聴けなくなると思うので、何か今後伝える方法を考えて行かないといけないんじゃないと思いました。

藤井委員長：

自分は、戦争体験の話ということで心構えをして聴きました。パーソナリティの話方とか、軽い感じで聴いたので、すごいいい番組だと思いました。実際には、「人がどんどん死んでいって…」という内容も含まれているんですが、そういうところも話しつつ、いろんな細かいストーリーがあって、個人的には、拳銃について、日本兵はちゃんとしていたけど、むこうのやつはポケットにつっこむだけだったという話は、その場にいる小話みたいな感じでよかったです。ラジオとしてのBGMも雰囲気があっていて、よかったです。迫田さんの話にもありましたが、こういう話を聴くのは貴重で、自分が思い出したのは、中学とか高校で平和教育みたいなのをやっていて、おじいちゃんに話を聴きに行きまわってまとめたことってことをしていました。そういう話をわざわざ聴きに行かないといけないところを、こういうラジオで流れて聴けるのはいいことだと思います。60分は長くて、最初仕事をしながらだと(頭)に入ってくなくて、この時間を狙ってピッと付ける方もいると思うんですけど、前回の話し合いでもあったように、こういう話を何回か聴けるような仕組みがあればいいなと思います。リストだけ見れるとか。理想的なのは「NHK 戦争なんかアーカイブス」のような。リストを見れるだけでもだいぶ違うと思います。60分が長いについては、例えば、30分番組にして月2にしてみるの、一つの案としてどうでしょうか。

今出たみなさんの意見に対して、こういう案はどうかとか、言い忘れたといったことはありませんか？

星村委員：

60分で制作されているという意図は、何かあるんですか？

事務局 丸田：

特に戦争に関してだから、60分という縛りではないです。当初スタートしたときに、その方のストーリーがあるので、どうしても時間が必要。時代を区切っていても、ある程度の時間が必要。あと、緩急をつけるために、思い出の品をお持ちいただいたり、ほかのコーナーを少し設けていたこともありました。

藤井委員長：

緩急の区切りが無くなった経緯は？

事務局 丸田：

いろいろと物を持って来てもらっているんですけど、その物事態が、戦争に関係するもの「伏線」ということで、同じ流れなんですよ。なので、そのままお話を続けてしていただいているということになっています。長い時には、1時間では話が終わらなくて、その時には2回シリーズだったり、翌月にその方のお話の続きが流れたりします。

迫田委員：

欠席の徳山委員のご意見は？

藤井委員長：

代読・戦中戦後を経験した方をゲストに呼び、当時の生活様式等を語ってくれるのは、記録資料としてもとてもいいと思います。もし可能なら、同じ年代の男女をゲストに呼んで、その当時の男性からみた視点と、女性から見た視点を語ってくれてもいいと思いました。

資料・写真を番組中に見ながらトークを進める時には、詳しく話してくれたら情景がリスナーにも想像しやすいと思います。放送時間に関しては、ちょうどいいと思います。リスナーの感想を集計して、反響がよかったゲストを再度出演したらいいのではないかと思います。

写真を見る時の話が、どなたからか出ていましたよね？ツイッターにつぶやいたりしてはどうでしょうか。

事務局 丸田：

私たちが現物を見て「おお！」ってなりますので、リスナーのみなさんもお覧になりたいですよ。映像的なものも。

迫田委員：

時間は最初長いと思ったんですけど、実際にしっかり聴くと面白いので、短くは感じました。仕事をしながらだと、聴き始めは義務感もあって(笑)時間が長く感じましたが、しっかり聴くと意外と短いなと思いました。

和泉委員：

この番組を進行するにあたって、事前の打ち合わせ、「こういう形でいきますよ」ということしているんですか？

事務局 作井：

1時間の番組で、打ち合わせを1時間くらいして臨んでいます。打ち合わせの段階でも盛り上がったりするんですよ。

和泉委員：

今回の福田さんも、学校の先生をしていた方なので、お話するのが生き甲斐だったりもするんですよ。

玉野委員：

どうやってゲストは探しているんですか？

事務局 作井：

ナビゲーターの花井さんのつながりが多いですね。安陵会のさばくりをされている方なので、そのつながりであ

ったり。

藤井委員長：

基本的には、語り部は大島内の方なんですか？

事務局 丸田：

そうですね。基本的にスタジオに来れる方をお願いしています。

星村委員：

審議とは関係ないかもしれないですけど、その CD って借りれたりするんですか？

事務局 丸田：

今は、基本的に CD として保存はしていないんですが、音源は保存されているので、CD 作成も可能です。すぐに聴ける！という状況ではないですね。

和泉委員：

私も仕事で文化財の担当をしていますので、やっぱり高齢者の話は、無くなってしまったら聴けないので、ラジオで残していくことは大切だと思います。

藤井委員長：

博物館に、聴けるところがあったりするけれど、わざわざ聴こうとは思わないので、学術資料としてもいいと思います。機会があれば、アーカイブがあるといいなと思います。

迫田委員：

ナビゲーターがいて、話がわかりやすいなと思いました。近所に 90 歳くらいのおじいちゃんがいるんですけど、おじいちゃんの思いが強すぎて、満州時代がどうだったとか、流れがよくわからなくて。半ば義務感で聴いているんですけど。(番組の話は)すごくわかりやすかったなと思いました。

和泉委員：

花井さんのような、間を取り持つような人がいて、若い人の感覚で聞いてくれたら、質問もしやすいですよ。1対1でもなかなか質問しにくいと思うし、違う世代を置くというのは、いい考えですよ。

玉野委員：

番組スタート時は、楠田さんがされていたんですよね？ナビゲーターも年代を変えて聞いてもいいと思います。あと、途中から聞いた人は聞きにくいと思いました。最初から聞く人じゃないと聞かないかも。

和泉委員：

聴くのは、車に乗っているときが多いですよ。集中して聴けます。自分の世界というか。

迫田委員：

僕は昔は、BGM をかけていたけど、今はラジオを聞いてますね。

和泉委員：

前に比べて、ラジオの聞けるエリアが広がって、間の電波の入らない知名瀬と根瀬部の曲がり角が(入りにくいので)そこだけ気持ちスピードを上げています(笑)

藤井委員長：

古仁屋行く途中ですよ～

迫田委員：

この番組を聞いている年齢層はどんなですかね？今回、じっくり聴いたからいい(番組)だと思ったんですけど、BGM を聞いて、「戦争のこと…自分に関係ないや」という気になって、終戦記念日以外には聴こうとあまり思わないんですけど。聞いてもらうために、アクションをうまくできたら、すごく学びになるんじゃないかと思いました。

事務局 丸田：

番組の最初のコンセプトが、「おじいちゃんに孫が話をきく」。楠田豊春さんに孫の楠田むつきさん、仲介となる世代の花井恒三さんをお願いしました。最初は、わたしたち世代が「復帰運動」についてわかっていなかったのので、BGM も日本復帰の歌だったり、朝はあけたりとか、そのへんで装飾されているというか、イメージを作られている感じではあるんですよ。

玉野委員：

聞く層を増やすために、生放送の中で「今日は〇〇がお話するですよ～」というフリがあれば、聴く心構えもできるかもしれないですね。

事務局 丸田：

生放送が、1日3回あるので、「この後〇〇があります」というアナウンス、ガイドは、した方がいいですよ。

迫田委員：

ラジオで直接聞かなくても、学校で聴くのもいいなと思いました。高校生に聞かせるのもいいんじゃないですか？

玉野委員：

ラジオ調査みたいなので、高校生に聞かせて、アンケートをとるものありかもしれないですね。

和泉委員：

番組の中でアクセントをつけるために、当時の音楽をかけたりとか、あったらすごくいいと思うんですけど、みつけるのもなかなか大変ですよ。流行っていた音楽とかね。

藤井委員長：

同じ時間帯の「放送ディ！学」も間に、曲とかが入っていたりしましたよね？

事務局 丸田：

そうですね。ブレイクとして一曲入れています。

藤井委員長：

自分は、朝の「50 年前の新聞紹介コーナー」(奄美群島みんなのニュース)が結構好きで、そういった形で「戦争の解説話」が入ってもいいんじゃないかなと、思いつきました。途中で余計なものが入ることで、いいテンポが途切れてしまう、というのが少し想像しにくいんですけど。

迫田委員：

今回、「又吉さんネタ」が出て来ていたと思うんですけど。それが、ブレイクポイントだったんですかね？

事務局 作井：

そうですね。後半の最初で、ナビゲーターの財部めぐみさんがご自身で調べて来たことを紹介するコーナーがあります。今回、語り部の福田さんが発行したエッセイ本の中で、「又吉さん」のことが出て来ていたので、その一部を紹介しています。

迫田委員：

個人的に聞きたかったことが、「健康オタク」というお話があったので、そういう話も面白そうだなと思いました。

和泉委員：

しょっちゅうタラソに行っているという話ですよ。

藤井 委員：

もしかしたら、そういったネタから入るのもよかったかもしれないですね。放送時間が長いと、改善した方がいいところが出てくると思います。

他にご意見がなければ、審議はこれで終了したいと思います。

7 審議機関の答申又は改善意見に対してとった措置及びその年月日

次回審議会までに改善に努める

8 審議機関の答申又は意見の概要を公表した場合におけるその公表の内容、方法及び年月日

① 自社放送:平成 28 年 7 月 9 日(土曜日)6:00~放送

② 書面の備置き:平成 28 年 7 月 9 日(土曜日)から、当該事項を記載した書面(議事録)を問う法人事務局へ備置き、聴取者の閲覧希望に対応

③ インターネット:平成 28 年 5 月 14 日(土曜日)より当法人インターネットのホームページに転載

9 その他の参考事項 なし